

都市戦略部 成果報告

都市戦略部長 山 本 誠 一

部局達成度

				
1	11	—	—	4

総 括

令和5年度は、永年の願いであった北陸新幹線福井開業を迎えることから、その開業効果を高めるための総仕上げとして、県都ふくいの魅力向上と賑わいづくりに取り組みました。

来街者のおもてなしと市民との交流促進のため、新幹線駅舎と一体的に整備した福井市観光交流センターを10月1日にオープンし様々なイベントや情報発信などを行い、新幹線開業とハピラインふくい開業の機運を高めるとともに、再開発事業の支援により、福井駅前電車通り北地区A街区「フクマチブロック」のホテル棟及び駐車場棟も新幹線開業に合わせオープンしました。

さらに、福井駅周辺の回遊性を高めるための恐竜モニュメント等の整備や、「ふくみち」など公共空間の利活用を図る等、官民連携して県都の玄関口にふさわしい魅力とにぎわいあふれるまちづくりに取り組みました。

3月16日には、「ふくいMaaS」アプリの利用開始をはじめ「すまいるバス」のEV化や人気声優による車内アナウンスの導入などにより、サービス水準の向上による利用促進に取り組み二次交通の充実を図りました。

また、危険な盛土による災害を防止するため、規制区域の指定に向けた基礎調査を実施するとともに、都市計画道路丸山上北野線の整備に向けた地元説明や建物調査等を行うなど、持続可能なまちづくりに取り組みました。

さらには、デジタルの活用により多様な幸せを享受できる社会の実現に向けて、46手続きをオンライン化するとともに、全庁的にDX推進への機運を高め、デジタル人材の育成に向けた研修を実施するなど、デジタルの活用による市民サービスの向上を図りました。

今後も、新幹線開業効果を持続的なものとし、さらに市内全域・県内に波及するよう、まちづくりや公共交通、DX推進の取組を着実に進め、安全安心で魅力的なまちづくりに努めます。

組織目標ごとの達成状況

I. 北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺の取組を確実に進め、県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいのあるまちづくりを進めます

市街地再開発事業については、福井駅前電車通り北地区A街区では、物価高騰等に対する国の支援制度を活用するなどの支援を行い、北陸新幹線福井開業に合わせてホテル棟、駐車場棟が一部先行開業しました。B街区では、事業計画の見直しを終え建築工事に着手し、福井駅前南通り地区では、物価高騰等の影響による事業計画見直し等の支援を行いました。

また、民間主体のまちづくりを促進し、まちのリニューアルとにぎわい創出を図るため、県と連携して県都まちなか再生ファンドによる建物の更新等に対する支援を行いました。

中心市街地の賑わいについては、ハピリンにおいて福井の地域資源をPRするイベントや新幹線開業に向けた特別イベント等を開催し、にぎわい創出と福井の情報発信の強化を図ったことで、入込客数などの目標を大幅に上回りました。

引き続き、ハピリンを中心に様々なイベントを開催するとともに、観光交流センターや周辺施設、商店街、公共交通機関等と積極的に連携しながら、賑わいのあるまちづくりを進めます。

II. 適正な土地利用の誘導と快適な生活環境の維持に努め、持続可能なまちづくりを進めます

一定規模の盛土等による災害から市民の生命・身体を守る目的で、危険な盛土等を規制する区域の指定のため、基礎調査を完了しました。今後は、規制区域の指定公示を行い、令和7年4月の盛土規制法に関する業務の円滑な開始に向けて、万全の準備を進めます。

福井市立地適正化計画において防災指針を定めるため、福井市都市計画マスタープラン等策定委員会専門部会を設置し、災害リスクの分析や防災まちづくりの取組方針等について審議を行いました。引き続き、居住や必要な都市機能の適正な誘導を図り、持続可能なまちづくりを進めます。

幹線道路の整備については、安全で快適な道路空間の形成のため整備を進めてきました。丸山上北野線は、地元説明会を実施し、用地取得面積の測量や道路範囲に影響のある建物や工作物の調査、設計を完了しました。また、並行在来線新駅設置の提言を踏まえ、関係機関と高木灯明寺線の整備に関する協議を行いました。今後は、高木灯明寺線の都市計画の変更をはじめ、改良すべき踏切道の指定や地方踏切道改良計画書の提出、地元説明等を進めます。

III. 地域をつなぐ誰もが利用しやすい「全域交通ネットワーク」の構築を進めます

二次交通の充実と利用促進については、開業記念イベントのほか、福井市地域公共交通計画の策定やカーフリーデー等のモビリティマネジメント、すまいるバスのEV化など、利用促進策やサービス水準の向上に取り組みました。

すまいるバスでは、乗ること自体を楽しめる仕掛けづくりとして、昨年好評だった福井ゆかりの人気声優による車内アナウンスを、4ルート全てに拡充しました。

ICTの活用については、新幹線開業に合わせてふくいMa a Sアプリを本格導入し、2月から路線バスでの運用が始まった交通系ICカードと合わせて、利便性の向上を図りました。

これらの取組により、公共交通の乗車人数は、目標を大きく超えることができました。

フィーダー交通については、停留所の追加やルートの延伸など、地域のニーズに合わせた、移動手段を確保するための取組を進めた結果、地域コミュニティバスやフルデマンドタクシーの乗車人数は、昨年実績を超える見通しです。

今後も、第2次福井市都市交通戦略に基づく各施策を進め、多くの人に利用される公共交通となるよう努めます。

IV. 誰もが安全で安心して暮らすために交通安全対策を進めます

高齢者、障がい者、子ども等交通弱者の安全を確保するため、交通安全教室や、交通安全推進団体・関係機関と連携した交通事故防止活動に取り組みました。交通安全フェスタや高齢者交通安全大会など、多くの方が参加するイベントを開催し、交通ルール・マナーの周知・啓発に努めました。

また、高齢運転者が第一当事者となる交通事故の割合が高いことから、高齢者が交通事故の加害者にならないよう運転免許自主返納の啓発など高齢者の事故防止に取り組みました。

しかしながら、目標を達成することができませんでした。

今後は、交差点付近での交通事故が増加したことを踏まえ、「横断歩道 de 歩行者を守る日」に合わせ、歩行者やドライバーに対し交通ルール遵守の徹底を強く啓発するなど取組を強化し交通事故のない安全安心なまちづくりに努めます。

V. デジタルの活用により市民サービスの向上を図るため各種施策を進めます

人々の生活をより良い方向に変化させるDXを推進するため、「福井市DX推進計画」及び「福井市DX推進計画実施計画」に基づき行政のDXに取り組み、デジタルの活用による市民サービスの向上を図りました。

国の「デジタル社会の実現に向けた重点計画」に示される優先的にオンライン化を推進すべき手続のオンライン化に取り組み、国のぴったりサービスなどを活用して、行政手続のオンライン化を推進しました。

標準準拠システムへの移行については、改版された標準仕様書と現行システムとの比較分析作業、システム開発事業者に対する詳細な情報提供依頼（RFI）、昨年度作成した移行計画書の詳細化などを実施し、来年度はこれを受けて本格的な構築作業を行います。

新技術の活用として、RPA導入業務の拡大、AI議事録作成支援システムの利用拡大を行い、業務の効率化を図りました。

また、DXの推進には、全庁的な機運の醸成とともにデジタル人材の育成が必要不可欠なことから、職員の役割に応じた研修を実施し、デジタルリテラシーの向上を図りました。

I. 北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺の取組を確実に進め、県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいのあるまちづくりを進めます

1	民間主体のまちづくりの推進	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを	達成度	
実行内容				
行動目標	福井駅周辺を魅力と賑わいのある市街地とするため、民間が主体となった再開発事業への支援を行い、商業、文化、医療、居住等の複合的な都市機能の充実を図ります。 新幹線開業後のまちづくりを見据えて、複数の再開発事業を確実に進めるため、事業者間の連携強化を図るとともに地元の理解と機運醸成に努めます。 また、県都ブランドデザインに掲げる 2040 年の将来像実現に向けて、民間が主体となって取り組むまちづくりを支援します。			
取組内容	○市街地再開発事業の支援 ・福井駅前電車通り北地区 A 街区：建築工事施工中、ホテル棟および駐車場棟一部先行開業（3 月） ・福井駅前電車通り北地区 B 街区：建築工事着手（1 月） ・南通り地区：物価高騰等により事業計画を見直し中 ○再開発事業等連絡調整会議開催（8 月、2 月） ○県都まちなか再生ファンド審査会の開催（8 回）、運営委員会の開催（6 回）			
指標				
計画		結果・成果		
民間主体によるまちづくりへの支援件数：3 件 再開発事業等連絡調整会議の開催：2 回以上 県都まちなか再生ファンドによる支援件数：20 件以上		民間主体によるまちづくりへの支援件数：3 件 再開発事業等連絡調整会議の開催：2 回 県都まちなか再生ファンドによる支援件数：12 件		
成果・課題	福井駅前電車通り北地区 A 街区については、物価高騰等に対する国の支援制度を活用した支援等を行い、令和 6 年 3 月の北陸新幹線福井開業に合わせてホテル棟および駐車場棟が開業しました。引き続き、5 月の全体竣工に向けて住宅棟の建築工事を進めています。 福井駅前電車通り北地区 B 街区については、1 月に建築工事に着手、現在、杭工事が完了し、基礎工事を行っているところです。 福井駅前南通り地区については、物価高騰等の影響により事業計画の見直しを行っており、令和 6 年度上半期中の権利変換計画の認可に向けて取り組んでいます。 再開発事業等連絡調整会議を開催し、各再開発事業の方針や工事進捗状況、にぎわい創出に係る取組の情報共有等を行いました。今後も再開発や周辺道路等の工事が続くことから、事業者間のさらなる連携強化を図り、福井駅周辺のにぎわいの持続化に努めていきます。 また、民間主体のまちづくりを促進し、まちのリニューアルとにぎわい創出を図るため、県と連携して県都まちなか再生ファンドによる建物の更新等に対する支援を行いました。5 年度は県内外から 300 件を超える問合せや現地視察がありましたが、地権者や建物所有者と出店希望者との条件調整が進まなかったことなどから、目標達成には至りませんでした。 そのため、今後、店舗誘致に向けたモデルプランの作成、提案や、地権者等と出店希望者との交渉のサポートなど、出店に至るまでの一連の流れを通した支援を行うことで、ファンドを活用した民間主体のまちづくりを促進していきます。			

2	中心市街地の賑わい創出	 11 住み続けられるまちづくりを	達成度	
実 行 内 容				
行動目標	賑わいと交流の拠点であるハピリンを中心とした様々なイベントを開催し、観光交流センター等の周辺施設や関連団体と連携して中心市街地全体で歩行者の回遊性を高め、賑わいを創出します。			
取組内容	○ハピリン7周年記念イベント（4～5月） ○ハピリン（にぎわい交流施設）指定管理者による指定事業 ・恐竜ランドでGO！（4月） ・あげフェス（11月） ・幸せもちもち満腹祭（12月） ・すまいるスケートハピリンク（12月～2月） など ○ハピリンと近隣商業施設との連携イベント ・ふくいメロンまつり（6月） ・FUKUI ARTIST ACTION（7月） ・まちなか音楽祭（9月） など ○歩行者・自転車通行量調査（7月、10月）			
指 標				
計 画		成 果 見 込		
総⑥ ハピリン入込客数 ：225万人（4年度）→270万人（5年度） ハピリン来場者数 ：42万人（4年度）→48万人（5年度） 総⑤ まちなか歩行者・自転車通行量（中央1丁目） ：29,357人（4年度）→36,000人（5年度） ハピリンと近隣商業施設との連携イベントの開催：4件	総⑥ ハピリン入込客数 ：318万人 ハピリン来場者数 ：61万人 総⑤ まちなか歩行者・自転車通行量（中央1丁目） ：30,356人 ハピリンと近隣商業施設との連携イベントの開催：5件			
成果・課題	ハピリンでは、開業7周年記念イベントや福井の地域資源をPRする「メロンまつり」「あげフェス」、毎年恒例の「ハピリンク」などのほか、北陸新幹線福井開業に向けて全国的な知名度がある恐竜をテーマにした「恐竜ランドでGO！」などの様々な集客イベントを開催し、にぎわい創出を図りました。新幹線開業効果もあり、ハピリンの入込客数、来場者数は目標を大きく上回り、過去最多となりました。 今後は、新幹線開業効果を持続させるため、福井の四季折々のおもてなしや福井ブランドの強化につながるイベントを開催するなど、にぎわい交流の拡大と周辺地域への波及を図っていきます。 歩行者・自転車通行量については、7月と10月の平日、休日に調査を実施し、平均30,356人と昨年より増加しましたが、目標達成には至りませんでした。しかしながら、7月の通行量は平均24,078人で前年度に比べ10%増加し、10月は平均36,635人と前年と同程度を維持しています。また、平日は7月10月ともに昨年度比で15%以上増加していることから、まちなかの日常的なにぎわいは回復傾向にあります。今後も引き続き、周辺施設や商店街等との連携を強化し、にぎわい創出に努めます。 ハピリンと近隣商業施設との連携については、「FUKUI ARTIST ACTION」における福井駅周辺のアートギャラリー等と連携したライブパフォーマンス、ワークショップの開催や、まちなかを周遊するスタンプラリーで「ハピリンク」の割引券をプレゼントするなど、連携イベントを5件開催し、回遊性の向上を図りました。 引き続き、にぎわいと交流の拠点であるハピリンを中心に様々なイベントを開催するとともに、観光交流センターや周辺施設、商店街、公共交通機関等と積極的に連携しながら、中心市街地のさらなるにぎわい創出と回遊性の向上に努めます。			

3	新たなまちの魅力と回遊性の向上 11 住み続けられるまちづくりを  達成度 
実 行 内 容	
行動目標	福井城址周辺の道路整備を計画的に行い、福井城址から養浩館へ快適に歩ける道路空間を形成することにより回遊性を高めます。 北陸新幹線福井開業に向けて、多言語化への対応等、多様な方にわかりやすい案内とするため公共サインを更新します。 また、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町と連携し、圏域内における魅力ある自然、歴史、文化などの地域資源のPRや体験イベントを開催します。
取組内容	○福井城址周辺道路整備 ・市道 1-359 号線歩道部の設計を実施（9 月着手、3 月完了） ○公共サインの改修 ・全 82 箇所中 49 箇所で開催（6 月着工、2 月完成） ○中心拠点の賑わい創出イベント ・「ふくい駅周辺謎ときスクエア」（3/2～3/24） ○福井駅東口周辺の恐竜モニュメント等整備 ・えちぜん鉄道駅舎壁面の恐竜ラッピング（2 月） ・御園通りの恐竜ベンチ、ライティング演出、恐竜サイン設置（3 月） ・東口広場の恐竜ロボット、モニュメント（トリケラトプス）設置（3 月） ・東口シェルター付近の恐竜モニュメント設置（3 月）
指 標	
計 画	成 果 見 込
福井城址周辺道路整備の推進 ：市道 1-359 号線（城址東側お堀沿い道路） 歩道整備設計 L=140m 公共サインの更新 ：48 カ所 中心拠点の賑わい創出イベント実施：3 月 福井駅東口周辺の恐竜モニュメント等整備	福井城址周辺道路整備の推進 ：市道 1-359 号線（城址東側お堀沿い道路） 歩道整備設計 L=140m 公共サインの更新 ：49 カ所 中心拠点の賑わい創出イベント実施：3 月 福井駅東口周辺の恐竜モニュメント等整備
成果・課題	福井城址周辺道路整備については、城址東側の市道 1-359 号線の歩道整備設計を完了しました。今後は、城址北東～東側の整備を進め、城址周辺を快適に歩いて散策できる環境整備を進めます。 まちなかの観光地や拠点施設等を案内する公共サインについては、49 箇所が多言語化対応や案内表示事項及び地図情報の更新等を行い、令和 4 年度実施分と合わせ全 82 箇所の改修を完了しました。 中心拠点の賑わい創出イベントについては、北陸新幹線福井開業に合わせて、福井駅周辺に設置した 4 つの宝箱を探すスタンプラリーを行い、連携市町の地域資源を PR しました。宝箱を観光交流センターや西武福井店等に設置することで、周辺施設や新幹線関連イベントとの相乗効果を生み出し、回遊性の向上を図りました。今後も、連携市町と協力し、県都の玄関口での圏域の魅力発信に努めます。 福井駅東口の恐竜モニュメント等については、新幹線開業により全国から福井を訪れる多くの方に「恐竜王国ふくい」を強く印象づける仕掛けとして整備を行いました。東口広場に整備したインパクトのある実物大のトリケラトプスのロボット（親）、モニュメント（子）をはじめ、陸、空、海それぞれのテーマで恐竜を感じることができる空間演出を行いました。 今後は、観光交流センター屋上の恐竜モニュメントや、県の駅西口の恐竜ロボット等と連携し、駅東西の恐竜空間を楽しみながら散策できる取組を進めるとともに、情報発信を強化するなど、さらなる回遊性の向上に努めます。

4	県都にふさわしい良好な景観形成	11住み続けられるまちづくりを	達成度	
実 行 内 容				
行動目標	県都にふさわしい美しい街並みをつくるため、民間が行う良好な景観に配慮した建築物等の更新やまちの魅力向上に資する事業を支援します。 また、福井らしい景観をつくり・育てるために、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町と連携した広域的な景観の形成を進めます。			
取組内容	○良好な景観づくりやまちの魅力発信への支援 ・福井市景観まちづくり事業による景観形成支援（1件） ・県都まちなか再生ファンドによる景観形成支援（4件） ○広域景観形成のPR動画作成 ・新幹線沿線の景観をPRする動画（11月完成、1月公開）			
指 標				
計 画		成 果 見 込		
景観まちづくり事業景観形成支援：5件 広域景観形成のPR動画作成（北陸新幹線沿線）		景観まちづくり事業景観形成支援：5件 広域景観形成のPR動画作成（北陸新幹線沿線）：1月		
成果・課題	良好な景観づくりやまちの魅力発信に向けて、景観まちづくり事業や県都まちなか再生事業による景観形成支援を行いました。商店街や建設、建築関係団体等を通じた周知広報の強化などにより、相談件数は前年度より増加しました。 今後は、良好な景観形成に向けて一層の制度活用が図られるよう、より使いやすい制度への見直しや運用の改善等を図るとともに、景観づくりに対する市民の興味・関心を高めるための取組を検討します。 広域景観形成のPR動画作成については、連携中枢都市圏の関係市町と協議を行い、北陸新幹線沿線の景観を撮影した「looking for the shine 輝きを探して」を制作しました。映像は動画サイトでの公開のほか、ハピリンの大型ビジョンやイベント等で放映するなど、福井の良好な景観のPRに努めました。また、連携市町においてもホームページや公共施設等で放映するなど、圏域の景観の魅力発信を行っています。 今後は、連携市町とのさらなる協力により、これまでに作成した動画を景観形成のほか観光誘客などにも幅広く活用するなど、様々な機会を通して圏域の景観の魅力を発信していきます。			

5	北陸新幹線の建設促進	9産業と技術革新の基盤をつくろう	11住み続けられるまちづくりを	達成度	
実行内容					
行動目標	いよいよ北陸新幹線福井開業を迎えることから、全ての市民が開業効果を最大限実感できるよう年間を通してイベント等を実施し、開業に向けた機運醸成を図ります。 また、10月に開業する福井市観光交流センターも活用しながら、全国からの来訪者へ福井の魅力を発信します。 敦賀・大阪間については、1日も早い認可・着工と早期全線開業を実現するため、県及び関係機関と連携し建設を促進します。				
取組内容	○建設促進大会 ・北陸新幹線関係都市連絡協議会の開催（5月、10月） ・福井市北陸新幹線建設促進協議会の開催（5月） ・福井県北陸新幹線建設促進同盟会の開催（7月） ・北陸新幹線建設促進同盟会の開催（7月） ○建設促進の要望活動 ・福井市及び福井市北陸新幹線建設促進協議会の中央要望の実施（7月） ・福井市の県要望の実施（8月） ・北陸新幹線関係都市連絡協議会の中央要望の実施（8月、11月） ○機運醸成 ・北陸新幹線福井駅入線式典（10月） ・福井市観光交流センター部分供用開始オープニングセレモニー開催（10月） ・北陸新幹線福井駅内覧会の実施（1月） ・北陸新幹線試乗会（2月） ・福井市観光交流センターグランドオープンセレモニー開催（3月） ・北陸新幹線開業イベント（3月） ・福井市観光交流センター視察（39回） ・出前講座の実施（25回）				
指標					
計画			成果見込		
総 北陸新幹線建設促進協議会等の開催数：5回 福井開業の機運醸成イベント等の回数：20回			総 北陸新幹線建設促進協議会等の開催数：5回 福井開業の機運醸成イベント等の回数：70回		
成果・課題	北陸新幹線については、半世紀以上にわたるこれまでの取組により、3月16日に金沢・敦賀間が開業を迎えることができました。 10月の入線セレモニーには300名の定員に1,538名の応募があり、大野市、勝山市、永平寺町とあわせ総勢500名で北陸新幹線の初入線をお出迎えし祝いました。また、同日に行われた福井市観光交流センターのオープニングイベントには約3,000人の市民が訪れるなど、開業機運の高まりを感じました。 さらに、市民870人が参加した福井駅舎の内覧会や新幹線試乗会、出前講座なども大変好評であり、福井開業に向けての機運醸成が図られました。 福井市観光交流センターの屋上では間近に新幹線の車両や恐竜モニュメントを望めることから、3月16日には観光客や市民など多くの方で賑わいました。 今後は、北陸新幹線の効果を最大限に発揮するためにも1日も早い大阪までの全線開業が実現出来るよう、関係機関との連携を強化し国に働きかけます。				

II. 適正な土地利用の誘導と快適な生活環境の維持に努め、持続可能なまちづくりを進めます

6	適正な土地利用の推進	11 住み続けられる まちづくりを	17 パートナーシップで 自然を達成しよう	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	危険な盛土等を規制し災害を防止するため、宅地造成及び特定盛土等規制法に伴う規制区域指定のための基礎調査を実施します。 また、福井市立地適正化計画において、居住誘導区域内の防災対策を位置付ける防災指針を定めるため、災害リスクの分析・課題の抽出を行います。				
取組内容	○基礎調査業務の実施 盛土規制法に基づく規制区域設定検討業務委託（3月22日完了） ・資料の収集 国道数値情報、都市計画総括図、土砂災害警戒区域等（6月15日～7月13日） ・県と協議 区域設定の基準について（8月21日、10月20日） ・隣接市町と協議 規制区域（案）について（3月6日～3月11日） ・規制区域（案）の作成（3月22日完了） ○防災指針の策定 福井市都市計画マスタープラン等策定委員会専門部会の開催 ・都市の現状と災害リスクの分析について（10月26日） ・防災まちづくりの取組方針について（1月17日）				
指 標					
計 画			成 果 見 込		
盛土規制法に伴う規制区域指定のための基礎調査の完了			盛土規制法に伴う規制区域指定のための基礎調査の完了		
成果・課題	基礎調査については、盛土規制法に伴う規制区域の指定に向けて完了しました。今後は、規制区域の指定公示を行い、令和7年4月からの盛土規制法に関する業務を円滑に開始するため、万全の準備を進めます。 防災指針については、福井市都市計画マスタープラン等策定委員会専門部会を2回開催し、専門的な見地から審議を行いました。引き続き専門部会を開催し、評価指標や居住誘導区域の審議を行います。				

7	街路整備の推進	3 すべての人に健康と福祉を	11 住み続けられるまちづくりを	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	まちの骨格となる幹線道路について、計画的に整備を進めます。 丸山上北野線は、道路用地の一部を北四ツ居町土地区画整理事業において確保しており、交通の円滑化及び通学路における安全確保を図るため、市街化区域内の道路整備を行います。 また、並行在来線新駅設置の提言を踏まえ、鉄道と高木灯明寺線の交差部についてハピラインふくい及び県と協議を行います。				
取組内容	○丸山上北野線の道路整備 ・地元説明会 (7 月 20 日開催) ・道路詳細設計 L=0.28 km (12 月 6 日完了) ・用地測量 A=7,000 m² (3 月 15 日完了) ○新駅設置に伴う道路等検討会議の開催 ・市・県・ハピラインふくい 事業スケジュール及び鉄道との交差方式について (5 月 10 日) ・市・中部運輸局 道路と鉄道との交差方式について (7 月 10 日) ・市・県・ハピラインふくい 道路整備に向けた地元対応について (7 月 11 日) ・市・県 事業スケジュールについて (8 月 28 日) ・市・中部運輸局・ハピラインふくい 道路と鉄道との交差方式について (9 月 12 日) ○中藤島地区及び明新地区の平行在来線新駅設置推進協議会との意見交換会の開催 ・市・ハピライン・地元役員 新駅設置と道路整備について (7 月 30 日)				
	指 標				
	計 画	成 果 見 込			
	丸山上北野線（市街化区域内）における用地測量の完了 新駅設置に伴う道路等検討会議の開催：3 回	丸山上北野線（市街化区域内）における用地測量の完了 新駅設置に伴う道路等検討会議の開催：5 回			
成果・課題	丸山上北野線については、地元説明会を実施し、用地取得面積の測量や道路範囲に影響のある建物や工作物の調査、設計を完了しました。 関係機関との協議については、令和 5 年 1 月の新駅設置の提言以来、ハピラインふくいや県、中部運輸局と事業化に向けた協議を行いました。今後は、高木灯明寺線の都市計画の変更をはじめ、改良すべき踏切道の指定や地方踏切道改良計画書の提出、地元説明等、必要な準備を進めていきます。				

8	並行在来線の利用促進		達成度	
実 行 内 容				
行動目標	令和6年春のハピライン開業に向け、駅及びその周辺でのイベント開催や様々な広報媒体を利用した情報発信を行い、機運醸成や市民の関心を高め利用促進を図ります。			
取組内容	○駅及びその周辺でのイベントの開催 ・北陸本線沿線フォトロゲイニング、ハピクエ（8月）（全駅） ・福井市観光交流センター部分供用開始オープニングセレモニー（10月） ハピラインふくいファンクラブ会員募集チラシ配布（福井駅） ・手話でワクワク！DREAM フェス（10月）缶バッジ作成（福井駅） ハピラインふくいファンクラブ会員募集チラシとノベルティグッズ配布（福井駅） ・フォトラリーキャンペーン（12月20日～2月8日）（全駅） ・森田駅周辺のグルメマップの作成（2月）（森田駅） ・ハピラインふくい開業日ノベルティグッズ配布（3月）（福井駅） ○広報媒体を利用した情報発信 ・市民意識調査で並行在来線の認知度に関するアンケートの実施（5月） ・出前講座（6回） ・広報ふくいへの掲載（4回） ・手話でワクワク！DREAM フェス開催をラジオで告知（10月） ・市役所正面玄関へのポスター掲示（10月～） ・市庁舎内のモニターでハピラインふくいの開業 PR 映像の放映（5月～） ・ショッピングシティベルでのハピラインふくいの開業 PR 映像の放映（3月～） ・市ホームページでの掲載（4月～） ・市職員向け電子掲示板（C-navi）への掲載（10月）			
指 標				
計 画		成 果 見 込		
（仮称）ハピラインファンクラブ会員数 ：300名以上 ハピライン開業の機運醸成等イベントの開催数 ：20回		ハピラインファンクラブ会員数：483名（R6.2月末） ハピライン開業の機運醸成等イベントの開催数 ：23回		
成果・課題	令和6年3月16日のハピラインふくい開業に向け、駅及びその周辺でのイベントの開催や様々な広報媒体を利用した情報発信による開業機運を高めました。 福井駅周辺では、福井市観光交流センターで「手話でワクワク！DREAM フェス」を開催し、ハピラインふくいノベルティグッズの配付やファンクラブ会員募集を行いました。また、沿線駅を活用した「フォトラリーキャンペーン」を実施し、森田駅では「森田駅周辺のグルメマップ」を作成するなど、実際に電車に乗って出かけるイベントを通して周知に努めました。 情報発信としては、市民意識調査、出前講座、広報ふくい、ラジオでのイベント告知、開業を告知する映像を放映する等を行い、開業に向けての広報活動に努めました。 市民意識調査では、ハピラインふくいの認知度について若い世代（18歳から29歳）が他の世代と比べて低い、また、周知の方法として「テレビ、ラジオでの広告」や「ホームページやSNSの活用、動画配信など」が効果的であることが明らかとなりました。 今後は、一人でも多くの方がハピラインふくいを利用していただけるよう、ハピラインふくいと認知度向上に取り組み、利用促進に努めます。			

9	二次交通の充実と利用促進	ゼロカーボン	11住み続けられるまちづくりを	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	公共交通相互のモビリティネットワークを充実し、スムーズに目的地に移動できる仕組みを構築するため、利便性の向上を図るとともに、地域鉄道及び路線バスが安定運行を継続するための支援を行います。 また、北陸新幹線福井開業に向け、ハピラインを含めた鉄道・バスが連携した企画、まちなかを走る「すまいるバス」のEV（電気自動車）化など、人と環境にやさしい公共交通の利用促進に取り組みます。				
取組内容	○利便性向上に向けた取組 ・福井市地域公共交通計画の策定（3月） 福井市地域生活交通活性化会議にて協議（6月、8月、10月、2月） パブリックコメントの実施（12月） ○利用促進に向けた取組 ・JR 越美北線利用促進事業（通年） JR 越美北線を団体で利用された方への運賃助成（通年） 利用啓発のための広報活動やイベントを行う住民組織への支援 ・まちなか公共交通お買い物支援事業の実施（通年） ・カーフリーデーふくいで田原町クイズラリーを実施（9月） ・市政出前講座、公共交通活用教室等（通年） 4回実施 ・すまいるバス全4ルートをEV（電気自動車）化（3月16日～） ・すまいるバス全4ルートで人気声優による車内アナウンスを開始（3月16日～）				
指 標					
計 画			成 果 見 込		
総2 公共交通機関の乗車人数： 811万人（4年度）→ 840万人（5年度）			総2 公共交通機関の乗車人数： 858万人（見込）		
成果・課題	第2次福井市都市交通戦略のバス交通施策をより具体的に推進するため、3月に福井市地域公共交通計画を策定しました。 利用促進に向けて、JR 越美北線の団体運賃助成やまちなかの店舗と連携した公共交通機関の運賃割引、カーフリーデー等のモビリティマネジメントなどの様々な施策に取り組んだ結果、通勤通学といった日常利用がコロナ前の水準以上に回復し、公共交通機関の乗車人数は、目標を大きく超えることができました。 また、北陸新幹線福井開業に合わせて、まちなかを走るすまいるバス全ルートで、振動が少なく、静かで環境に優しいEV（電気自動車）バスの導入を支援し、昨年北ルートで好評だった、福井ゆかりの人気声優による車内アナウンスを4ルートに拡大するなど、バスでの移動自体を楽しめる仕掛けづくりに取り組みました。 3月16日には、すまいるバスに乗ることを目的とした多くの観光客が西口広場のバス乗り場に列をなし、4ルートともに満員の便が数多く見られました。 今後は、新幹線開業効果による公共交通の利用状況やニーズを踏まえ、観光客等の利用を促進する事業にも取り組み、二次交通のさらなる充実と公共交通の利用促進を図ります。				

10	I C Tを活用した交通利便性の向上	DX	9産業と技術革新の基盤をつくろう	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	市民や観光客が公共交通を利用しやすい環境づくりのため、M a a Sの本格導入や路線バスへの交通系 I Cカードの導入支援など、I C Tを活用した利便性の向上に取り組みます。				
取組内容	○ふくいM a a S ・ 協議会開催（7 月、10 月、12 月、2 月） 電子企画切符（14 種類） ・ ふくいM a a Sポータルサイト、公式Instagramの管理（通年） ・ ふくいM a a Sアプリの本格導入（3 月 16 日～） ふくアプリ内の機能として導入 交通機能：経路検索、電子企画切符販売、 決済機能：キャッシュレス（クレジットカード、ふくいはぴコイン） ・ ふくいM a a SアプリのPRブース開設（3 月 16 日、17 日） ・ エリア別モデルコースのパンフレット等作成（3 月 16 日～） ○交通系 I Cカード ・ 利用方法等の周知（広報紙、ケーブルテレビ、ユーチューブなど） ・ 路線バスでの運用開始（2 月 24 日～）				
指 標					
計 画			成 果 見 込		
・ ふくいM a a Sアプリの本格導入			ふくいM a a Sアプリの本格導入		
総3	公共交通のキャッシュレス決済比率： 22.8%（4 年度）→ 25.0%（5 年度）		総3	公共交通のキャッシュレス決済比率： 26.0%	
成果・課題	市民や観光客が公共交通を利用しやすい環境をつくるため、嶺北 11 市町などで組織する「ふくいM a a S協議会」では、3 月 16 日から「ふくいM a a Sアプリ」の運用を開始しました。 このアプリは、県民アプリ「ふくアプリ」内の機能として位置づけたことで、クレジットカード以外にも、地域ポイント「ふくいはぴコイン」による決済が可能となり、利便性の向上が図られました。 アプリでは、経路検索や電子企画切符の購入がができ、公共交通が 29 時間 2900 円で乗り放題になる「ふくふくきっぷ」をはじめとした 14 種類の企画切符を取り揃え、開業の土日には約 70 枚を販売しました。 また、2 月 24 日からは路線バスで交通系 I Cカードの運用が始まるなど、ふくいM a a Sアプリも含めて、公共交通のキャッシュレス化が図られました。 M a a Sや I Cカードについては、新幹線開業イベントに合わせて特設ブースを設け、駅利用者向けにチラシの配布とPR活動を行ったほか、広報紙や広報番組、Instagram、ユーチューブなどの媒体を活用し、利用方法等の周知に努めました。 今後は、キャッシュレスによる決済をより推進するため、ふくいM a a Sアプリに日常生活で利用しやすい機能を追加するほか、全ての公共交通機関への交通系 I Cカードの導入など、I C Tを活用した交通利便性の向上に取り組みます。				

11	地域拠点の機能充実と地域内移動手段の確保	3 すべての人に健康と福祉を	11 住み続けられるまちづくりを	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	公共交通機関の待合環境の向上や案内サインの整備など、地域拠点の機能充実を図ります。 また、地域拠点に結節するフィーダー交通について、地域バスや地域コミュニティバス、フルデマンドタクシーの運行など、地域特性に応じた移動手段の確保に努めます。				
取組内容	○地域拠点の機能充実に向けた取組 ・越前東郷駅に案内サインを整備（8月） ・和布バス停待合所を修繕（1月） ○移動手段の確保に向けた取組 ・福井市南東地区フルデマンドタクシー停留所の追加（4か所） ・すまいるバスの運行ルート調整（3月～） 東ルートの一部延伸 北ルートの一部変更 ・フィーダー交通の運行ルート調整 海岸地域バスのルート変更 美山地域バス（羽生）のルート変更 森田地域コミュニティバスの一部延伸				
指 標					
計 画			成 果 見 込		
④ フィーダー交通の乗車人数： 12.8万人（4年度）→15.3万人（5年度）			④ フィーダー交通の乗車人数： 12.1万人（見込）		
成果・課題	第2次福井市都市交通戦略に基づき、拠点への機能の集積とモビリティの改善による持続可能な地域形成を実現するため、待合環境の整備やフィーダー交通の見直しを進めました。 地域拠点の機能充実に向けた取組としては、越前東郷駅への案内サイン整備や、和布バス停待合所の修繕に対する支援を行いました。 移動手段の確保に向けた取組としては、地域拠点に結節するフィーダー交通がより利便性が高まるよう、福井市南東地区フルデマンドタクシー停留所の追加や、すまいるバス東ルートの一部延伸、地域バス等のルート変更など、地域のニーズに合わせた見直しを行った結果、地域コミュニティバスやフルデマンドタクシーの乗車人数は、昨年実績を上回る見通しです。 乗合タクシーは、大きく減少した為、フィーダー交通の乗車人数は、目標には届きませんでしたが、今後も、地域のニーズに合わせたルート見直しや待合環境の向上、福祉車両の活用といった住民共助による輸送活動の推進など、地域特性に応じた、市民の方にとってこれまで以上に利用しやすい便利な移動手段となるよう、地域と一緒に取り組めます。				

組織目標Ⅳ 誰もが安全で安心して暮らすために交通安全対策を進めます

12	自転車の利用促進と利便性の向上 DX ゼロカーボン	3 すべての人に健康と福祉を	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	市民や観光客の手軽な移動手段のシェアサイクル「新ふくチャリ」を活用し、観光施設・散策ルート等の情報を提供するとともに、各種イベントと連携し、利用拡大を図ります。 また、公共交通機関の結節点となる福井駅の南側に、自転車駐車場を整備し、自転車利用者の利便性を高めます。				
取組内容	○ふくチャリの利用推進 ・各種広報媒体等を利用した情報発信（随時） ・月額基本料金無料キャンペーンの実施（8月） ・各種イベントへの出展、ふくチャリ試乗会の実施 交通安全フェスタ（9月）、カーフリーデー（9月） 観光交流センターオープニングイベント（10月）、健康フェア（3月） ・ふくチャリ増台 60台（当初）→102台（3月） ・ふくチャリ臨時ポート設置及び常設ポート増設 臨時ポート：ふくい桜まつり（令和5年3月～4月）、越前朝倉万灯夜（8月） ふくい市場フェスタ（10月） 常設ポート：10か所（当初）→13か所（10月）→19か所（3月） ○自転車駐車場の整備 ・福井駅南自転車駐車場整備（10月）				
指 標					
計 画			成 果 見 込		
ふくチャリのポート増設 ： 1カ所（観光交流センター）10月 3カ所（福井大学、福井工業大学、ヨリバ） 3月【12月補正】 ふくチャリの利用回数 ： 6,729回（4年度）→11,000回（5年度）			ふくチャリ利用のポート増設：9カ所 ふくチャリ利用回数：11,022回		
成果・課題	新ふくチャリは、令和5年3月にICTを活用した無人での貸出システムに変更しました。利用促進のため、イベントへの出展や広報、会員募集の月額基本料金無料キャンペーンなどの実施や、ふくい桜まつり等のイベントでの臨時ポートを開設しました。また、利用が見込まれる9か所（行政機関、大学、観光施設、鉄道駅）で常設ポートを増設して、利用拡大を図りました。 その結果、利用回数は8月～11月の間、毎月1,000回を超え、目標を達成しました。 来年度は、引き続き自転車に搭載したGPSデータを分析し、利用者が多く移動、滞在するエリアに、増台した自転車やポートを効率的に配置し、誰もが利用しやすい環境づくりに努めます。 福井駅南自転車駐車場は、10月に供用開始し自転車利用者の利便性向上に取り組みました。				

13	高齢者と子どもの事故防止	3 すべての人に 健康と福祉を	11 住み続けられる まちづくりを	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	交通事故による「死者数・重傷者数」を無くし、事故の無い安全で安心なまちをつくるため、高齢者や子どもを対象に交通安全教育を行います。 高齢者が占める交通事故の割合は高く、外出時の反射材の着用や自転車に乗る際のルールやマナーなど事故を防止するための、広報・啓発に取り組みます。 高齢運転者が加害者にならないよう、警察と連携し、運転免許証を自主的に返納しやすい環境づくりに努めます。				
取組内容	○交通安全推進団体等と連携した交通安全普及啓発活動の実施 ・四季の交通安全市民運動（春 5 月、夏 7 月、秋 9 月、年末 12 月） ○交通指導員（137 人）による街頭指導活動の実施 ・主要交差点における毎週金曜日の定例街頭指導活動、地区行事等における街頭指導活動 ○高齢者や幼児・児童等を対象とした交通安全教室の実施（随時） （交通安全教室 開催 229 回、参加 5,969 人） ○警察と運転免許証自主返納合同窓口の開設 5 回 （森田公民館（5 月）、本庁（7 月、10 月）、清水健康管理センター（9 月）、鷹巣公民館（12 月）） ○中学生を対象とした自転車ルール・マナーの啓発活動の実施（森田中学校・足羽中学校（6 月）） ○交通安全イベントの開催 （高齢者交通安全大会（8 月）、交通安全フェスタ（9 月）） ○交通安全反射材 P R グループ「ワン☆スター」による反射材着用事業 （高齢者対象イベントなど出演 4 回）				
指 標					
計 画		成 果 見 込			
総 39 総 40	交通事故死者数：1 人以下（5 年） 交通事故重傷者数：40 人以下（5 年） 運転免許証自主返納合同窓口の開設 ：4 回以上（5 年度） 中学生を対象とした自転車ルール・マナー の啓発活動：2 校	総 39 総 40	交通事故死者数（年次）： 3 人 交通事故重傷者数（年次）： 78 人 運転免許証自主返納合同窓口の開設 ：5 回 中学生を対象とした自転車ルール・マナー の啓発活動：2 校		
成果・課題	交通安全推進団体等と連携した交通安全啓発活動や、各地区の交通指導員 137 人による街頭指導活動、交通安全教室に取り組みました。特に、交通死亡事故が多発した際には、主要交差点での街頭指導を実施し、広く市民に注意を促しました。 しかしながら、交通事故死者数、重傷者数は、いずれも目標を達成できませんでした。 特に、高齢運転者が第一当事者となる交通事故の割合が高い状況であることから、高齢者が交通事故の加害者にならないよう、警察との運転免許証自主返納合同窓口を開設し、運転免許証を返納しやすい環境づくりに取り組みました。 今後は、交差点付近での交通事故が増加していることから、「横断歩道 de 歩行者を守る日」にあわせ、歩行者には道路を横断する際の交通ルール遵守を呼びかけるとともに、ドライバーに対しては横断歩道における歩行者優先の徹底を強く啓発していきます。				

V. デジタルの活用により市民サービスの向上を図るため各種施策を進めます

14	デジタル化による市民サービスの向上	DX	11 住み続けられる まちづくりを	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	行政手続のオンライン化を推進し、市民サービスの向上を図るとともに業務の効率化に取り組みます。				
取組内容	○オンライン化申請手続 6 件追加 ・水道使用開始届等（ふく e-ねっと） ・道路占用許可申請等（マイナポータル（ぴったりサービス）） ・産業廃棄物の処理、運搬の実績報告（電子メール） ・応急仮設住宅の入居申請（マイナポータル（ぴったりサービス）） ・応急修理の実施申請（マイナポータル（ぴったりサービス）） ・障害物除去の実施申請（マイナポータル（ぴったりサービス）） ○福井市行政手続のオンライン化方針の策定				
指 標					
計 画			成 果 見 込		
電子申請可能手続数 ： 40 手続（4 年度）→43 手続（5 年度）			オンライン化申請手続数 ： 46 手続		
成果・課題	国の「デジタル社会の実現に向けた重点計画」に示された地方公共団体（市）が優先的にオンライン化を推進すべき手続のうち新たに 6 手続をマイナポータルの活用などでオンライン化し、市役所に行かずともスマートフォンなどから手続ができる環境を整備して、市民サービスの向上を図りました。 また、それら優先的にオンライン化を推進すべきとされた行政手続以外の行政手続についてもオンライン化を推進するため、福井市行政手続のオンライン化方針を策定しました。 今後は、策定したオンライン化方針に基づき、本人確認、添付書類、手数料納付の有無などから優先順位を定め、順次オンライン化をすすめ、「行かない窓口」に取り組み、市民サービスの向上と業務の効率化を図ります。				

15	情報システムの標準化・共通化や新技術の業務への活用 DX	11 住み続けられるまちづくりを	達成度										
実 行 内 容													
行動目標	令和 7 年度末までに 20 の基幹系業務システムを国の標準準拠システムへ円滑に移行するため、前年度作成した移行計画の詳細化などに取り組みます。 また、R P A や A I 議事録作成支援システムの導入業務を拡大し、業務の効率化に取り組みます。												
取組内容	(1) 標準準拠システムへの移行に関する取組み ・改版された標準仕様書と現行システムとの比較分析作業 ・システム開発事業者に対する詳細な情報提供依頼 (RFI) の実施 ・令和 6 年度のシステム構築経費の算定 ・令和 4 年度に作成した移行計画書の詳細化 (2) R P A 導入業務の拡大 令和 5 年度に新たに導入した業務 (削減時間: 1,051 時間 10 分) ① 一般業務業者登録入力作業 (22 時間 24 分) ② 償却資産申告書 税理士コード入力業務 (5 時間 15 分) ③ 固定資産評価額検索業務 (36 時間 40 分) ④ 要介護認定申請受付業務 (285 時間 00 分) ⑤ 業務用メール (C-navi メール) 保存削除 (58 時間 34 分) ⑥ 新 HP 手続きサポートナビ動作確認業務 (82 時間 00 分) ⑦ 施設予約サービス (よやくーる) 納付書作成業務 (250 時間 00 分) ⑧ 介護認定審査会日程照会対応業務 (171 時間 36 分) ⑨ 償却資産申告書入力業務 (66 時間 24 分) ⑩ 還付金支払日入力業務 (73 時間 17 分) (3) A I 議事録作成支援システムの導入業務の拡大 ・ A I 議事録作成支援システムの機能追加に関する庁内周知												
	<table><thead><tr><th colspan="2">指 標</th></tr><tr><th>計 画</th><th>成 果 見 込</th></tr></thead><tbody><tr><td>標準準拠システムへの移行に関する進捗率 : 35.3% (4 年度) → 47.1% (5 年度)</td><td>標準準拠システムへの移行に関する進捗率 : 47.1%</td></tr><tr><td>R P A の導入による業務削減時間 : 2,103 時間 (4 年度) → 2,800 時間 (5 年度)</td><td>R P A の導入による業務削減時間 : 3,154 時間 21 分</td></tr><tr><td>A I 議事録作成支援システムの導入による業務削減時間: 900 時間</td><td>A I 議事録作成支援システムの導入による業務削減時間: 1,027 時間</td></tr></tbody></table>				指 標		計 画	成 果 見 込	標準準拠システムへの移行に関する進捗率 : 35.3% (4 年度) → 47.1% (5 年度)	標準準拠システムへの移行に関する進捗率 : 47.1%	R P A の導入による業務削減時間 : 2,103 時間 (4 年度) → 2,800 時間 (5 年度)	R P A の導入による業務削減時間 : 3,154 時間 21 分	A I 議事録作成支援システムの導入による業務削減時間: 900 時間
指 標													
計 画	成 果 見 込												
標準準拠システムへの移行に関する進捗率 : 35.3% (4 年度) → 47.1% (5 年度)	標準準拠システムへの移行に関する進捗率 : 47.1%												
R P A の導入による業務削減時間 : 2,103 時間 (4 年度) → 2,800 時間 (5 年度)	R P A の導入による業務削減時間 : 3,154 時間 21 分												
A I 議事録作成支援システムの導入による業務削減時間: 900 時間	A I 議事録作成支援システムの導入による業務削減時間: 1,027 時間												
成果・課題	標準準拠システムへの移行については、国の「自治体情報システムの標準化・共通化に係る手順書」に従い、計画的に作業をすすめ、令和 7 年度までに取り組む移行作業 17 項目のうち 8 項目まで完了しました。令和 6 年度以降構築作業が始まるため、移行計画をもとに着実に作業を進めていきます。 R P A については、新たに 10 業務に導入し、全 33 業務の削減時間は年間換算で 3,154 時間となり、導入前にかかっていた時間の 59.7% が削減できました。 A I 議事録については、令和 5 年度は 53 の所属が利用し、議事録作成にかかる業務時間を 1,027 時間削減できました。 今後も、R P A 及び A I 議事録の導入効果を周知するとともに、R P A シナリオ作成支援・研修等を実施して、導入業務の拡大を図り、業務の効率化に取り組みます。												

16	DX推進のためのデジタル人材を育成する 研修の実施 DX		11 住み続けられるまちづくりを 	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	DXを推進するため、全庁的な機運の醸成とともにデジタル人材の育成に向けて、職員の役割に応じた研修の実施に取り組みます。				
取組内容	対象者		研修名		のべ受講者数
	全職員	J-L I Sによる情報セキュリティ研修（eラーニング）		1,955	
		デジタル人材育成研修		15	
		標的型メール訓練（無作為抽出）		116	
		情報セキュリティ研修		(注)2,202	
	所属長	管理職情報セキュリティ研修		130	
		DX研修		55	
	課長補佐	E B P M ・ データ利活用理解促進研修		80	
	DX推進リーダー	DX推進リーダー育成研修		15	
	実務担当職員	総合行政情報システム担当者研修		57	
		ふくeねっと（電子申請システム）操作研修		54	
		R P Aシナリオ作成研修		5	
		J-L I Sによるマイナンバー研修（eラーニング）		741	
		A c c e s s研修（2回）		17	
		統計オンライン講座（4回）		100	
総務省による情報連携に向けた研修（eラーニング）		6			
新採用職員	汎用型G I S研修		18		
	職員用パソコン利用者説明（2回）		69		
	エクセル活用研修		41		
					5,676
(注) 情報セキュリティ研修の受講者数については、当該研修の対象者数を記載しています。 (全職員対象・申込不要・共有フォルダ内ファイル閲覧方式のため受講者数の把握困難)					
指 標					
計 画			成 果 見 込		
デジタル人材育成のための研修回数 ：21回（4年度）→ 22回（5年度）			デジタル人材育成のための研修回数：23回		
成果・課題	職員それぞれの役割に期待されるデジタルスキルの取得を図るため、対象者に応じた研修を実施するとともに、実務担当者向けに複数種類の研修を行い、職員のデジタル対応能力の向上に取り組みました。 研修の実施にあたっては、従来の集合型に加え、eラーニングや動画配信など幅広い方法をとることで受講の利便性を高め、延べ5,676名が受講しました。 今後も役割に応じた研修を実施し、デジタル人材の育成に取り組みます。				

